

第46回市民ふれあいトーク =生活に文化が薫るまちづくり=

日時 平成25年7月25日 18:30~20:00

場所 倉敷市芸文館 アイシアター

要約版

《市長》

皆さんこんばんは。今日の市民ふれあいトーク、過去で一番最大の人数の申込を頂いていると伺っております。本当は会場の都合で、大体50人位となっているんですけども、今回さすが倉敷市は文化の町ということで、本当に多くの皆様にお越しいただきまして、心から感謝を申し上げます。この市民ふれあいトークはもう46回目で、私が市長に就任しました年から始めさせていただきまして、大体毎回50人から60人の方にご参加をいただきまして、色々ご意見を頂いているんですけども、これまでに3000人ぐらいの方が、参加をして頂いているようになるのではないかと思います。色んなご意見を頂きまして、市政の方向を考える時に本当に大変参考にさせていただいております。心から感謝を申し上げたいと思います。

今日、「生活に文化が薫るまちづくり」という題でございまして、いつも最初に私の方から5分か10分ぐらい倉敷市の文化のこと、文化振興のことについて、どういう考え方とか、体制でやっているのかというお話をさせていただきまして、その後皆様方から、今こういう所が重要なんじゃないかとか、こういうところに自分が取り組んでいる所があるとか、こういうところの文化を全国に発信した方がいいんじゃないかとか、そのようなお話をさせていただきまして、意見交換とか、私が直ぐお答えできるものばかりじゃないと思いますけれども、お話を進めていければと思っておりますので、よろしくお願い致します。

それでは、「生活に文化が薫るまちづくり」ということでございまして、私たちが住んでいるこの倉敷市の町、本当に歴史のある地域であり、且つ、例えば倉敷市児島は昨年古事記記載から1300年ということございまして、昔から非常に文化がある町、また平成17年8月に倉敷市が真備、船穂町と合併をいたしまして、古代吉備王国ということで一部では最近卑弥呼の地域がどこかということ、この吉備から出雲にかけての地域じゃないかと言われる方もいらっしゃるで盛り上がっているんです。そのような地域、吉備真備さんの地域でもあり、また玉島の港は既に港の開場から350年を越えて昔からの港町、その文化に根付いている町、また現在我々が居ります倉敷の天領の地域におきましては、江戸時代からの文化を非常に濃く残す地域ということで、大変市内の各地域、本当に色々な文化、そして伝統が息づいている所だと思えます。

倉敷市の大変重要な施策、例えば医療とか福祉とか経済とか色々あるわけですけども、その中でこの文化のことについて、当然倉敷市は非常に重きを置いているわけですが、実はまだ倉敷市に文化に関する市全体でこういうふうに取り組んで行こうという計画のようなものが、まだございませんでした。そういうこともありまして、私が市長に就任したのは平成20年の夏なんですけど、平成20年の秋から市内の文化に関する有識者の先生とか学者の先生方とか色んな代表の方々に、審議会を作っていただきまして、倉敷の文化振興の基本計画を作っていこうということになりました。その細かい計画ということではなくて、どういうふうに文化を我々が捉えるのか、どういうことをこれからの世代に向かってやっていくのが重要なのかということをお皆で意識を持って取り組んでいこうということで、

この文化振興の基本計画を作っていただくことになりました。平成20年から約1年半をかけまして、第10回くらいまで審議会を開いていただきました。そして市民の皆さん2000人の方に、アンケートをお送り申し上げまして、自分たちの生活のどういうところに文化が根付いているのか、文化についてどういう概念を持っているのかというお話を聞いたりして、まとめていただいたのがこの倉敷市の文化振興基本計画でございます。この基本計画の中では文化は生活の中で生まれ、そして育まれていくと。そして伝統や地域の歴史に支えられてこの地域の文化というものはできている。新しく生まれた街などではなかなか文化がまだ育っていないということがあると思います。その多様な文化を地域で培って、また後世といいますか、子供・孫の世代に伝えて、そしてそれを世界に発信をしていこう。文化を生活の中に本当に大きなものとして取り込んでいるということが、この「生活に文化が薫るまちづくり」ということで、この倉敷市の文化振興の基本計画の基本理念となりました。文化というものは感動や共感によって生まれるものだという事などをこの文化振興の基本計画に書いていただいております。あまり細かくの説明は差し控えますけれども、大きく目指す方向として、人材育成と、次世代への承継ということで、大きく5本の目指す方向を作ってくださいました。

「文化を知る子が未来をつくる」、その為に我々は何をしていくべきなのか。「わたしの文化、あなたの文化、みんなの文化」ということで、自分だけで色んな文化を習ったり教えたりされるわけですが、それをどんどん広げて交流して連携をしていくことが当然重要だと思います。そして「らしき文化と世界をつなぐ」、自分の所に置いているだけではもったいないわけですので、国内外へもっと情報発信をしていった方がいいんじゃないだろうか。4番目「だれもが文化を楽しむために」色んな文化施設の整備とか、修繕とか、補修とか市の方でも一生懸命やっているんですが、なかなか進んでない所もありますけれども、文化施設の整備、修繕に進めていくべきではないか。そして「世界に輝け、らしき文化」ということで、例えば倉敷市にある文化財の保存、また伝統的建造物群保存地区、また玉島や児島の町並み保存地区などの保存、そして承継ということに力を入れていく必要があるのではないかと。という大きく5つの方向で出させていただいております。

そしてまず、特に重要ということで挙げて頂いているのが、市民の特に子供さんに対して文化芸術活動の推進を行なっていこう。それから、まだまだ発信をなかなかできていないということと言われる方が非常に多いので、それに力を入れないといけないのではないかと。文化施設の適正な管理、これは施設の改修、補修のことですね。それを年数もかなりきていますので、それをやっていかないといけないのではないかと。そして囲碁や将棋などの地域の文化振興につながる事業の充実ということで、特に力を入れていったらいいのではないかとということなどを挙げていただいております。

今、大きなざっとしたお話だけを申し上げましたけれども、倉敷市の文化振興課、また倉敷市が設立いたしました市の事業を補完する機能を果たすものとしての倉敷市文化振興財団、そしてこれまでの長い歴史の中で、倉敷市が新市合併をしました昭和42年に一番最初に倉敷市の大きな文化の団体・個人の方々の団体ということで倉敷市文化連盟さん、これまでの長い歴史の中で皆さんが活動していただいて、そして今の倉敷の町が形作られて、倉敷の活動というものができてきたのではないかと考えております。

地域によって様々な特色がございます。音楽、芸術ということだけではなく、地域の伝統芸能、例えば茶屋町のい草、錦菟菫の磯崎眠亀さんの素晴らしい活動。また水島の薄田

泣菫さん、芥川龍之介さんと非常に親交があったということで山陽新聞でも度々採り上げられております、そういう方たちの活動。また横溝正史さんが真備に疎開をされ、そこで金田一耕助を生み出したということ等など、本当に倉敷市内というものは様々な文化、個性、芸能があり、それを皆さんが発展させていただいていると思っております。

そしてこの倉敷の町には、日本で最初の西洋近代美術館である、昭和5年にできました大原美術館、また私どもの倉敷の市の美術館などもありまして、本当に環境としては良い方ではないかと思っております、市としましては。それから市内には、芸術科学大学さんをはじめ、音楽の面でも作陽さんとか文化芸術に関する学生さん、先生方も沢山いらっしゃるということで、環境が非常に揃っていると思っているわけですが、その中でやっぱり先ほどもありましたが、まだまだ発信が足りないんじゃないかとか、こういうところを改善した方がいいんじゃないかとか、そういうお話を今日皆さんにお伺いできれば大変ありがたいと思っております。全国の中でも倉敷が、非常に観光地として有名だということは多くの方から言って頂くんですけども、その観光の町としても倉敷の文化を何回も来て見てもらいたい、そして体験してもらう為にはどうすればいいのかということに、実は市も非常に悩んでいまして、是非に皆様の方からこういうところをもっと変えた方がいいんじゃないかとか、こういうのがあるから発信してもらったらどうかとか、そういうご意見を頂戴できれば大変ありがたく思っております。ちょっと私ばかりしゃべりまして恐縮でございますが、よろしくお願ひします。

《参加者 A さん》

茶屋町の磯崎眠亀記念館から参りました。茶屋町は倉敷市に合併した時に、倉敷の東玄関ということで前触れはよかったんですが、一向にその様子はないんで。ただ一つ、茶屋町にあります文化施設、磯崎眠亀記念館でございます。これが約150年程のものを大事に保存してやっておるんですが、我々の活動としましては、ただ昔話にこういう磯崎眠亀さんがおられましたとするんでなしに、今新しくこれから廃れていっているい草とか、そういうものを通じまして、子供たちに与える機会を作ろうと一生懸命頑張っておるんです。

《市長》

活動を皆さん御存じない方もいらっしゃるかも知れないんで、少しお話いただけたら。

《参加者 A さん》

活動は、今子供たちが町探検という形で、ちょうど夏休みになっておりますから、今日も子供たちが町を知ろうということで来られているんですが。その中で現在お家に畳のない家ができています。非常にい草の産地として、“三高い草（さんたかいぐさ）”ということで立派ない草が茶屋町周辺にできたということ。そのもとが錦莞菴という花ござができて、明治の時代に世界に対して発信して、世界3位の輸出高を稼いだと。現在とは違ひまして、その昔に世界を相手に3位の輸出、大変なことでございます。そういうことを色々教えてやっているんですが、い草を知らない子供がおりますので、い草から説明をして、この間も箱で作ったい草を収穫して見せている。お母さん方も「い草はどんな色を

しとんですか」とか、そういう説明もしますし、眠亀館に来られましたら「柱がこの家にはあるが」と。こういうような生活文化が物凄く変わってまして、2×4でパネル工法で家に柱が無いお家がある。「この家には柱があるが」こういうような質問が出ますし、土壁を知らないんです。土壁を見ますと、「この壁は何で出来ているんですか」というご質問があります。そういうことで、ただ昔話だけを話したんではいけないということで皆さんとふれあいをする機会を作ろうと頑張っております。

《市長》

ありがとうございます。世界3位の輸出だったということで、この倉敷市内の稼ぎ頭というか、当時の日本国の中での稼ぎ頭の位置付けだったんじゃないかと思えます。今でもい草、倉敷市内でも栗坂の方ですかね、最近では、取れないわけですがけれども。ただ一方で兎島では畳べりを日本の8割を作っているということもありますので、市としましても昔の歴史と今の産業のことも一緒に、もっと発信していけたらと思いました。頑張ります。

《参加者Bさん》

日頃私たちは命と健康ということを大事にしながら、すべて植物性の塗料を使い、すべて本物で、要するに木の樹齢だけが活きる、職人には我々が死んでも残るものだから、決して恥をかくような手を抜いた仕事はしてはいけないと、徹底して使う人のことを思いながら物を造ろうということでやっています。

我々は商工会議所の中で産業デザイン研究会というものをやっています。実は35年間活動していますが、今までは講演とかしか出来てなくて、いよいよこの11月21日から4日間、アイビースクエアで。我々の家具を含め、倉敷のものづくりをしている、全国レベルの人が物凄く多いんです。実は趣味のサークルというのは、倉敷は物づくりにおいては全国1位です。それこそアートフラワー、七宝焼き、ガラス、焼き物、あるいは木工、木工はまだ日本一ではないけれども、そういう人が埋もれてしまってる部分があるんです。だから、それを我々の手で少なくとも10人、20人の単位で引き上げてあげて、それを全国に向けて発信しようという発表会をします。決して売る場所ではない、まずは見てもらおうと。倉敷ではこんな良い物があるんだよと。今までやったことがないけどやろうと。アイビーさんをお願いして、会場費を安くしてもらって、あまりお金をかけなくて、どこまで出来るかということ。今まではハードの面でお金をかけすぎの面があるんです。色々な建物を建てたり、でもそれって繋がらないですよ、継続しない。だから動きの中で継続しよう。勿論発表して良い物が欲しければ、お売りしますけど。まず見てもらって人々に感動をしてもらって、倉敷ってこんな良い物があるんだということを我々は徹底したい。日常生活の中にもそういうものが根付いているんだという倉敷を見せたいがために、11月21日から4日間、アイビー学館でやりますんで、是非皆さん見に来て下さい。

《市長》

ありがとうございました。PRも兼ねて。生活に文化が薫るまちということで、先ほど

の畳もそうでございます。今言われた工芸の家具もそうでございますし、本当に今、良い物、長く続く物、歴史があるものに対する、日本国内もそうですけれども海外からの関心というのが非常に高くなっているように思います。

今年2月に海外へのPRということで、初めてフランスに、倉敷の観光PRも兼ねて、児島のデニムのPRも兼ねて行ったんです。その時に感じたのは、特にフランス人が強いのかもかもしれませんが、歴史とその物の背景について、非常に関心を持たれて、それをパッと見るだけじゃなくて、何故これはここで作っているのかとか、何故児島でデニムからジーンズが作られるようになったのかとか、何故ならば昔から綿花が出来ていて、それから学生服が出来てとか、そういう話をするんです。そうすると観光地としてだけというんじゃないで、歴史を皆さんが非常に貴重だと思っていただいているところがあるのだなと感じました。背景とか歴史とかも一緒に発信してくださるとは思いますけれども、よろしくお願ひしたいとします。

《参加者Cさん》

倉敷芸術科学大学のものです。出身は香川県で、今聞いた二人の話を基に、意見させてもらおうとします。自分は香川県出身なんで、県外のお客さん側の立場なので、そちら側の視点から言わせていただこうとします。

まず茶屋町のい草も倉敷の文化、ガラスとか木もそうですけれど、駅に着いてあまりそういうのを感じられないです。大学に来て3年目ですけど、あまり倉敷の文化を吸収できなくて、知らないものの方が多いです。だから日常生活の中で文化を感じられるようにしたらいいのではないかと思います。具体的に言うと、さっき言っていたアイビースクエアでやるというのは、確かに来るとは思うんです。来るんですけど、次に来た時にはやってないですね。だから常にやっていて、日常生活の中で感じるものが必要ではないかと思うので、例えば、駅から出たら絶対通る道があります。そこに文化を薫らせるものを配置、ガラスとか椅子とかを置いたりして身近に接してもらうことで、文化を理解してもらう。大体観光地に来る人は、リピーターとか多いです。何故リピーターになるかという、友達が倉敷にいるから、茶屋町にいるからといって、遊びに来た。友達に会いに来た。それで文化にたまたま触れて、いいなと思ってもう一回来るといのが多いと思うんです。文化に触れられない、文化を理解しにくい、言葉が難しい、専門用語が多い、そこをもう少し分かり易く伝えるための努力が必要ではないかと思ひます。そこら辺を検討していただけたらと思ひています。

《市長》

ありがとうございます。香川県の方から見た立場ということで、香川はどうですか、駅とか文化がパッと解るようになっているんでしょうか。ないですか。岡山駅には、備前焼がコンコースの中に置いてあったりというのはありますけれど、児島駅を出るとジーンズのゴリラが置いてありますけれど、倉敷ガラスとか、先ほどのい草とか、そういうものももっと身近な所にパッと見たらあるようなということですかね。

《参加者 C さん》

ガラスとか文化をかぐわせるお皿とかも、見ただけでは分からない、触れてみないと分からないんです。触れる機会を多く持ってほしいというので、駅内にある店とかとも協力して、触れる機会を増やしていこうというのが必要だと思うんです。店の人も備前焼とかのお皿を使ってもらって、これは備前焼なんですよと机の上に紹介を書いてやる、実際に備前焼を使うというのが大切だと思います。

《参加者 B さん》

今の件で、我々は色々なお店に実際の手作りの家具を入れたり、焼物を置いたりしています。一つは御存知かも知れませんが、有鄰庵のテーブル、椅子、一部ガラスとか、平翠軒の2階、奥田不動産、つね家。ありとあらゆる所にそういう本物を見せてあげようという動きをやっています。ただし、知らない方が多い。だから見せるだけじゃなくて触れてもらう、私の店でもやっているし、ただあまり知られてないんでね。それをもっと広報活動でやってもらうとか、実は有鄰庵から平翠軒にいたる通りに行って観光客に色々話をするんですが、倉敷は文化のレベルが高いね、とよく言われるんです。こんなものどこも置いてないよ、ロケーションもいいし、凄くレベルが高いと言われているから。我々がアイビー学館で何でやるかといったら、建物は124年経っている。倉敷の紡績の発祥の地、物作りの発祥、アイビーから全国に発信できるんじゃないかということがあるから。我々は倉敷に生まれてよかった、生活してよかったと、日々感動を覚えるような町にしたいんです。そのための第1回目だから、頑張ってくださいるので是非応援してやってください。

《市長》

先ほどの学生さんが言ってくださったのは、その通りだと思いますけれども、まだまだPRが出来ていない。どういうところを見たら本物があるとか、そういうこともあると思いますし、一方で私が最近考えているのは、今日は大学の先生もいらっしやっているかも知れないんですが、倉敷市内には1万何千人もの大学生の学生さんがいらっしやるわけです。先ほど言われましたけれども、町との接点が少なかったり、町のことに興味を持ってもらえるようなことが少ないかなと思っています。ですので、市や文化の皆さんと学生さんとの交流というんでしょうか、どちらからの働きかけか分かりませんが、学生さんたちは大学を終了されたら、地元に戻られる方が勿論いらっしやるわけで、その時に我々の倉敷のPRを、勿論好きになってくれたらしてくれるんじゃないかと思いますので、そういうところももっと進めたらいいなと思っています。勿論先ほど言われたように、市民の皆さんに今一度、この町の良さというものをもっと分かりやすく発信していくことが、非常に大切だなと思っています。ありがとうございます。

《参加者 D さん》

倉敷街角コンシェルジュ現在5年目になりますけれど、市民ボランティアの観光情報案内のガイドですとか、町興しの色々なイベントの企画とか、開催なんかをさせていただいて

いるんです。先ほどの文化計画の立案をするのに市民公募がありましたので、その時に一生懸命作文をして、文化のことは特に倉敷でも誇りに思うことは沢山あるんですけど、特に関わりたいと思って参加させていただいて1年半、本当に心血を注いで意見を出ささせていただいて、とても想いのこもったものができたと思います。

倉敷の文化は確かに高尚だし立派だし、本当に世界に誇れるハイレベルのものだと思うんです。一方で本当に親しみやすいもっと肩の力を抜いて、夕涼みに歩いてもさっき言われたガラスとか、素晴らしいものがウインドーにも飾ってあるし、そういうことに触れられる稀有な土地だと思っています。沢山マンションが出来ていますけれど、遠くからも老後はここで過ごしたいと思って、引っ越して来られるような魅力のある町だと思っています。観光客の方にも、短い時間で帰られるから伝わりきらないから、今度は泊りがけとか、違う方ともう一回来てください、と必ずご案内しているんです。

私たちはメンバーと5年間毎月1回、自分たち市民がもっと倉敷の魅力を感じて味わおうと思って、中心市街地や、市内の玉島・児島・水島・真備とか歩かしてもらっています。メンバーの人が、長年住んでいるけどやっぱり凄いなということをいつも言われます。倉敷の魅力、真備の人は真備の魅力を語るとか、玉島の魅力を語るような、市民公募をなさって自分の街のことを熱く語れるような、情報提供できるような方々を育成されるとか、情報発信の方が付いて回って、歴史のことや建物の説明をするのはガイドの素晴らしいことなんだけど、そのエリアでここに来られたらあそこあそこは見てほしいとか、新しく出来た魅力的な味を味わって帰ってくださいということが語れる人に沢山なってほしい。

それから、観光文化大使というのを今世界中で倉敷市出身で名前を良く知られているスーパーアスリートがいるんです。来年ソチまであと何ヶ月になったんですけど、文化とスポーツは隣接だけれど、共通する所がすごく沢山あって、本物中の本物のアーティスト、表現者だと思うんです。彼にソチで素晴らしい結果を出してもらって、倉敷の観光文化スポーツ大使になってもらって、市長さんとペアになって、倉敷の魅力を世界発信していただきたいなと本当に凄く願っています。

公募というのは街を活性化させる良いアイデアだと思います。白鳥にヒナが生まれた、名前を集めようとか、皆でつけようとか。いろんなことで市民参加ができるというのは倉敷でいいところ、協働のまちづくりだと思うので、その辺をご検討ください。

《市長》

ボランティアの皆さんの活動は本当に街にとって大切なことだと思います。街角コンシェルジュの活動をしてくださって、大変ありがたいと思っております。また市内でも美観地区でもボランティアガイドの皆さんとか、市立美術館であれば美術館のボランティアの方が活動して下さったりとか、大原美術館でもボランティアの皆さんと一緒に活動されたりということ等など、本当にその良さをよく知っていらっしゃる方々が多く増えてくださって、発信をしていただけるということは大変心強いことだと思っております。情報発信が少ないと言われるんですが、やはり行政だけでは発信数に限りがあると思うんです。一生懸命工夫してやっているんですが、ホームページで出したりとか。ホームページを見られる方ばかりではないので、少しでもボランティアの皆さんとか市民の皆さんが、発信に力を貸していただければ大変ありがたいと思っております。

《参加者 E さん》

バイオリニストのユーディ・メニューインさん、ご存知ですか？ニューヨークの方で、8歳でプロになった方です。その方が仰るに、昼間、町で掃除をする仕事をしている人が夜には四重奏を演奏する、そういうまちづくり、暮らし、ライフスタイル、クオリティ・オブ・ライフが私たちの目指す世界です、ということをお仰っています。ご本人はプレーヤーであり指揮者であり、一般の市民が生活の中で、彼の場合は音楽だったんですけど。昼は色んな形で仕事をするという方や、夜は音楽や色んな所で楽しんだり交流を深めてゆく、そういうまちづくりを目指していくんだという話をされていました。

コンシェルジュについても、岡山市は表町商店街の角々にいらっしゃって、話をすると、どこの路地のどこを曲がったらイタリアンのお店があつて、ここにはこういう物を置いてあるからと、ノートにびっしり手書きである。自信を持って誇りを持って、お客様をおもてなししているという取り組みをされている。

駅に関して言うと岡山駅は大きいですけど、やっぱり写真のパネルでいろんなところの紹介をしている、ただの写真のところもあるし、町によつたらタッチパネルで動画が出てきたりとか。駅を降りてすぐのタッチパネルで児島を押すと、デニームの言葉の発祥は地名ですよ、デニームというところが発祥で、言葉になって、じゃあなぜジーンズになったのか、というのが出てくる。そういう情報発信の場、駅を降りて一歩目を降りてすぐ目の前にあるものを見て、どこへ行ってみようか、みたいなのがあるといいのかなと思って。

そういう情報発信と、自分たちが暮らしの中で楽しみながら、豊かに生活できる、生活人としてはそこを大事にしたいなあと思います。

《市長》

ありがとうございます。先ほども駅の話が学生さんから出ましたけれど、今も少しやってるんです。倉敷の駅の改札を出ましたら、正面左に大きなパネルみたいなのと、駅のバスが何時にどこへ出ますとか、そういうのも導入しまして。以前は分かりにくかったんですけど、バスの行き先と時間を出したり、それから、大きなパネルの方では、文化の映像を流したりということをやってるんですけど、まだまだ駅で情報を得ていただくというところは、ちょっと少ないかもしれないですね。駅だけではないと思いますけど、色んな所で情報を得てもらえるようにということで頑張りたいと思います。

《参加者 F さん》

下津井より参りました。岡山駅とか倉敷駅、夜9時ころ、駅前通りが、私は目が不自由なんですけど、明るくてライブストリートみたいなことをやっているんですね。先ほどどなたか仰いましたが、茶屋町は倉敷の東の玄関なのに、駅周辺が結構寂しい。児島もそうなんです。瀬戸大橋線が開通してもう25年。児島は岡山県の最南端、南の玄関です。最近、児島駅前通りとか駅周辺が、ものすごく寂しいです。帰りの通勤・通学客が大体時間が終わった7～8時ごろになると、人通りも車通りも閑散としている。

児島駅前にロータリーがあるんです。春のせんいまつりの時に、大きなイベントステージになって、会場として使われるんですが、それ以外は年間通じて日頃ほとんどあそこで

イベント・行事をしているのを見たことがないので、こういう場所でストリートライブとか野外音楽会とかをさせてもらえたら、少しは通勤・通学客も元気になるだろうし、まして観光で来られた方が、明るい元気のいい街なんだなあと思っていただけると。児島支所の方に許可願いを出しに行ったら、倉敷市主催もしくは大きな公益法人団体以外は、個人や民間団体に、そう簡単に許可を出来ませんと言われたので、あれおかしいな。伊東市長はいつかあの駅前ロータリーをもっと民間の人が使って、駅前をにぎやかに活性化させてくださいと言った気がしたのになと思って、憤慨して帰りました。

私が言いたいのはライブパーク倉敷とか、児島、玉島の交流センター、或いは以前は堅苦しかったんですが、最近は営利行為でなければOKということで各公民館なんかでも、ダンスとか音楽会とかコンサートとか、その練習とか。300円・500円・1000円、部屋によって会場費を設定して、許可願いを出せば、自由に個人でも民間団体でも使えるようになっていきます。私は、そういうライブパークや交流センターの施設と同じような感覚で、市が管轄している駅前広場とか公園で、野外ライブを。私は今日市長にお金のかかる話はこれ以上したら気の毒だと思うので、お金のかからない話をするつもりで来たので。500円でも1000円でも市のほうに私らが納めて、何時から何時まで、何人ぐらいで利用しますと文化交流施設と同じように。そういう野外でイベントをさせていただいたら、広報しなくても人目につくし。文化会館の特定の部屋だったら、案内を受けた人しか知らないじゃないですか。だけど、駅前広場で音楽的な活動したら、もっともって街が元気になるんじゃないかと思って、市の管轄地域を普通の文化施設と同じような申し込み方法で使わせていただけるようにしてもらいたいという願いで来ました。

《市長》

大変具体的で分かりやすいご提言、ありがとうございます。今お話を聞いていて、問題は、市の公民館とかライブパークとかの生涯学習施設とか、児島・玉島文化センターを使うものと、児島の駅前広場という形で。公園という位置づけになっていますので、担当が建設局ですよ、これが問題なんですけど。市の担当の違いで申し訳ない話なんですけど、建設局の方は普段の文化交流とか生涯学習の施設を貸したりするというのあまりないものですので、規定が整備されていないかなと思いましたので、よく見直しをしてみたいと思います。どういう貸し出しが出来るのかというと、占有して使う場合とかは使用料とかが出てくると思いますけど、少しでも使っていただいたほうがいいと思いますので、規定を検討したいと思います。

《参加者 G さん》

私も児島から来ました。当初はファッションタウンで色々活動していましたが、今は岡山市京山にあるNPOで活動しております。日頃思っているのが、生活・文化・まちづくりは自分作りだと思うんです。そういう視点からすれば、特に若い人が再生というのが分からない、全然経験したことがなければ再生と言う言葉も分からないと思います。今の若い方たちは、その体験というのがものすごく少ないんですよ。インターンシップ、今流行ってますけど。先ほど倉敷の地域の素材があれば、畳とジーンズ、そういう体験をする

ことによって、再生ということが一つ考えられ、大事ななと思います。キーワードは体験だと思います。市長も言われたように、ただ見る・聞くだけじゃない、五感を刺激するような。畳がなぜここへできたのか、それは、どういう人と関わりがあってその地域に生まれたのか、そういう物語がこれからは大事じゃないかと。むしろ、観光の「かん」は「観」ですけど、私の持論では、感動の「感」だと思います。五感の「感」を使うべきだと思います。それを今、人は求めているのではないかと思います。地域の歴史を、特に女性の方が割りとそういう魅力を感じているんじゃないかと考えられます。それが再生の一つのキーワードとしては体験を、必ず若い人たちをですね、やっていただく。

それからもう一つ、創生という言葉を私よく使うんですけど、これを皆さん、日常、全然使われてないんですよ。創造の「創」に「生」です。これは先ほど言ったように、畳とかジーンズ、そういういろんなものを、付加価値を高めていくのが創生だと思うんですよ。切れ端とか畳でも、あまったらもったいないです。いかにして生活道具として。ただ、民芸、装飾じゃだめです。生活の一つ、生活の中で活かしていく、というような考え方を。私は創生も大事じゃないかと思います。そういうことで、再生と創生の両方で、生活に潤いがあるし、魅力的なところを観光客に。この素晴らしい、魅力ある倉敷のまちづくりになるんじゃないかと思っています。

〈市長〉

ありがとうございました。体験ということで言うと、今私のほうも教育委員会にお願いをしてるんですけど、地域の文化とか芸術について、学校の社会の授業とか社会学習の授業とかで取り上げてもらいたいと言っております。大学生の皆さんに体験してもらおうのと、子どもたちが小学校とか中学校で地元のことを体験して、大きくなって留学するとしたら外国でそれを発信してくれると思いますし、東京で仕事をすればそれを発信してくれると思います。最近、畳がない家も出てきたと言われましたが、自分が体験したことでもないし心から出てこないと思いますので、子どもたち、学生さんとか観光客の方についても、歴史とか体験を重視するということが大変重要だと思いました。

〈参加者 G さん〉

言い忘れたことがありました。今、男女共同参画社会の講座も行きましたけど、年齢層が固まっています。若い人、異年齢集団の交流をやってもらいたいんです。あまりにも年齢が固まりすぎて。色々な人とネットワークをうまくして、年齢の交流をお願いしたい。

〈参加者 H さん〉

児島から参りました。去年、私は小さなレストランを開きまして、全国放送で流れたものですから、北海道とか九州からお客様が来られまして、今のところ児島のために貢献しているんじゃないかなと自分では思っております。

るるぶさんによりますと、観光客が増えた県のNo.2が岡山県なんだそうです。来られる観光客の64%が下調べをして来られるそうです。どこか目的を持って来られるという事

で。公共交通機関を利用して児島駅を降りられた方とか、先ほどの学生さんが仰られたように、何にもないじゃないかということが多いです。それで、少しでも予算がありましたら、公募でもして、デニム、ジーンズに関するアートを駅とかに導線として。交流センターの図書館の周りなんか裸の像がありますけど、あれもジーンズにしてほしかったなあと思いますし、下津井・児島ステーションがありますよね、昔の。あれも今風の道で筋斗雲になって、風神・雷神図とかになってますけど、本当に児島を愛している人だったら、あのまま下津井コースラインを残しておいたと思うんです。何か新しいものを作るときも児島の人を、建築家でも入れてほしいんですよ。何か全然関係のないものが出来てるので、それがすごく残念に思います。

あと、駅が暗くなってるんです。今、6本電気が消えています。市に言っても、特殊な電気なので時間がかかります。前、夜ダンスと音楽のイベントをした時は、3日で換えてくださいました。でも今回はまだ、今1ヶ月経ってますけど、まだ消えています。節電のために消してるんだしたらそれを報告してくださいと言ってありますけれど。ということで、市長のお考えとか姿勢が職員に伝わってないような気がします。

《市長》

ありがとうございました。駅は、市の分かJRの分かわかりませんが、調べてみます。すみません。駅が暗かったり、人が少なかったりということもあると思うんですが、児島地区は中でも非常にジーンズストリートをはじめとして、多くの皆さんが活躍して下さったり、さっき銅像のことを言われたんですが、あれは児島の駅の方から市民交流センターができる時に引っ越して来てもらいまして、海と瀬戸大橋の方を向いて、架け橋になるように、ということで寄贈していただいているんです、実は地元の団体の皆さんに。大変ありがたいと思ってるんですけど。PRが色々足りないところがあるかなと思っておりますので、もっとPRしていきたいと思っております。今芸術祭ということで、直島のこともやっておりますけど、児島の方でもデニムの芸術祭をやってくださいたりしていますので、我々ももっとPRしないといけないと思います。

《参加者Iさん》

倉敷の美術協会の者です。50年近く美術協会の展示会をお正月を中心にやっております。その時に美術館全体を使ってるんですけど、初めから美術館として建てていないものですから照明が暗い所があるんです。そこも使って全館を使って、展示会をやるという形になって、何十年も前から話してるんですけど、丹下健三先生の建物であるということで、いらいすることができない。でも市役所として作ったのであって、美術館として作ったものではない。それで今実際何十年も美術館として使ってるんだから、せめて外観は変えなくても、照明ぐらいは良くしてほしいなどのお願いです。もう一つ、全館を使うということで我々は無料でやっている、自分たちの費用だけでやってるんですけど。2階に遙邨先生の部屋とかがありまして、それは、お客さんが来るためにいつもあけてないと先生のが見えませんからと言われるのは分かるんですけど、例えばそこもただにいただいて、そのときだけでも。それで全市民で亡くなった先生方の作品も見られる。我々の現在の作

家の作品も見られるという状況になれば人も入りやすくなる。人数だけでなく入場料だけでなく、両方よくなると。

《市長》

ありがとうございます。照明の話は確かにそうですね。もともと市役所だったんですが、市役所としても使い勝手が悪かったんです。暗くて照明まで距離があって、やっと今ぐらいはいったんですが、まだ使い勝手が悪いという話はよく伺います。確かに外をいろうわけにはいかないと思います。もちろん市のものですので、最終的には古くなったら壊したりということも市の都合で出来るわけですけど、どこまで丹下先生の、建築学会でも大変魅力的な、金字塔の一つだと言われてますので、それを保存しながら、使い勝手がいいように、ということですね。すぐにできるかどうかは分かりませんが、お話は分かりますので。検討出来るかどうかみんな考えてみます。

《参加者 J さん》

児島から来ました。僕の思ってたことをたくさん皆さんが言ってくれたので、もう言うことはないぐらいだと思います。

僕は文化ということで、食文化ということに注目してまして、人間、食べるものを豊かにすれば、全てが豊かになるんじゃないかと思うんです。5年前まで僕は本当にジャンクフードばかり、ファーストフードばかり食べて育ってきました。でも、結婚してから奥さんに作ってもらって食べ物で変わりました。有機無農薬の野菜、米、友達の手によって作った米、それを食べることによって、体からアトピーが無くなった、心が豊かになったという気がしています。音楽も、世代もあるかもしれませんが、ジャンルがありますよね。若いころは本当に、海外のロックアーティストにあこがれてた。レゲエアーティストにもあこがれた、ヒップホップアーティストにもあこがれた、だけど、日本の音楽に注目しなかった。それを例えば海外の人が三味線の音を、尺八の音を音楽の場に取り入れると、すごくかっこよく聞こえた。だから尺八の音を聞き始めたり、篠笛を始めたり、三線(サソリ)を始めたりしました。きっかけですね。若い人に、これからの子どもにキャッチしてもらってアピールの仕方を工夫してほしい。文化、守る文化も必要かもしれません。今ある文化はすごいと思います。でも文化は生まれ続けてます。路上で絵を描いてる人もたくさんいます。音楽をしてる人もたくさんいます。そこに、日常にある文化をみんなが目に見えるようにしてくれたら、もっとすばらしい、豊かになるんじゃないかと思います。例えば、本当に路上で音楽ができる美観地区にしてほしい。駅前でも音楽ができるようにしてほしい。そうすると豊かになると思う。身近に文化が薫るんじゃないかと。

今、僕は、有機無農薬野菜を売る水曜市場というのを、有鄰庵の場所でやらせてもらってます。そういう場所を、点々と作っていかうと思ってます。児島でも作るつもりでいます。倉敷ではこの8月に福島でも始めます。本当に小さい市ですけど、そこにご近所のおばあちゃんだったり、主婦だったり、集まってみんなで食べ物について語ったり、子どもの教育について語ったり。そういったコミュニケーションをする場所が、今本当に少ないと思います。来年からは本格的に百姓を始めます。田んぼと畑でおいしいご飯を作って、

それを提供する店を始めようと思います。それを安く提供するには自分で育てて、それを運べば安く提供できるんじゃないか。それで店をします。

《市長》

はい、ありがとうございました。食文化の話も言ってくださいまして、本当はこの文化振興計画は、食文化は入ってなかったんですけど。でも今お話を聞いたら、食文化に器を使うわけですし、どういう環境の中で食べるか、ということも出てくるわけで、全部繋がってるなと思いました。ぜひ頑張ってください。

《参加者 K さん》

前の方で尺八についてお話がありましたので、ちょっとお話を、時間ありませんけど。私は倉敷三曲同好会に席をおいておりまして。邦楽を子どもたちに伝承させるために、近くの葦高小学校にもう11年目になります。今度8月18日には芸文館で演奏するようになっています。言いたいのは、子供たちに尺八・琴を指導している中で、礼儀作法、あいさつから教えております。ダラダラと姿勢は悪く、それを正して、こんにち言うたら、すぐ20名くらいの生徒が明るさをもって。尺八は高価なものですから、水道管で私が手作りで作った塩ビ管で、毎年芸文館で演奏をしております。これからも三曲同好会をよろしく願います。

《市長》

益々のご発展をお祈りしています。子供たちへのご指導ありがとうございます。倉敷の将来を担ってもらわないといけないので、大変感謝しております。

《参加者 L さん》

私は公民館講師を30年しております。担当は木彫りです。今日も秋からの講座の紙も持ってきたんですが、身近である公民館講座、文化と非常に関係あるであろうと思いますが、参加する人が段々少なくて、体験会が2回あって、2回で続けばいいんですが。長いことして毎年言われるのが、予算が減りました、補助が少なくなりましたということで、講座が減っていったんです。昔は部屋はいっぱい、階段までも展示物があって、みんな本当に自分の作品を並べていたのが、段々少なくなったのが寂しいなと思っております。今日は現場の者として、講座を増やしていただきたいなと思って。健康面のスポーツ関係が増えて、昔あったあれがなくなっている、これがなくなっているというのが、30年もしていると肌で感じますので。

《市長》

ありがとうございました。なるほどですね。公民館講座の数が少なくなっている、受講

者の方が少なくなっていると。確かに私としても、公民館の講座で色んな活動をしていただいて、またスポーツも同じですけれども、活動していただければ、皆さん益々ご年配になられてもお元気でいらっしゃるとなれば、市の国民健康保険財政も非常に助かるわけでございますので、皆さん元気にいていただかないといけないと思っております。そういう観点で講座の方をよく再考させていただきたいと思えます。

《参加者 M さん》

私は山田方谷を広める倉敷の会のものです。山田方谷さんは倉敷ではないですけど、山田方谷さんに連なる人々というのは、素晴らしい人たちが、三島中洲さん、川田甕江さんとか大勢おられる。もっと身近におられる郷土の偉人を是非知っていただければと思いつつ色々しています。今マップづくりとかしていますので、是非皆さん興味を持っていただければ、応援をとということです。あと、私は連島からきました。薄田泣菫顕彰会もやっております。連島、水島を見るにつけて、大変疲れていきつつあるということで、同じ倉敷でも中心の倉敷は、どうしても中心市街地の倉敷になってしまいます。やっぱり倉敷・水島・児島・玉島が合併してできましたけれど、倉敷と言うとすぐ大原美術館のある倉敷が倉敷と言うんですけど。水島のほうにも目を向けていただければと思えます。倉敷に鶴形山があるように、水島も亀島山があります。是非みなさん行っていただければ、あそこに上がると鶴形山以上に360度のパノラマが広がります。連島・福田・水島・玉島も一望にみえます。市のほうでも是非、亀島山周辺の整備をお願いしたいと思えます。

《市長》

ありがとうございました。山田方谷さんは、高梁川流域の大変な偉人でいらっしゃいますので、弟子に二松学舎を作られた三島中洲さん、川田甕江さんとかいらっしゃいますので、我々も山田方谷の大河ドラマ化とか一緒に応援しておりますので、頑張っていきたいと思えます。亀島山は、当然水島の陸地だったわけで、昔からの地域の景観がわかるころですので、木を刈ったりとか整備をします。

《参加者 N さん》

こんばんは。私は中学生の娘が二人おまして、保護者の立場からお話させていただきたいと思えます。中学校の部活動は、文化系よりは運動系のほうが多いということもあり、文化系も数が少ないためにそれにも入れないという子が多いんです。そういう子が帰宅部になっています。でも今、囲碁や将棋というのは結構子どもたちの間では、ブームになっていて、パソコンなどのゲームでもやっていたり、対戦したりということもあるんです。勿論、倉敷といえば大山名人ですし、中学校の部活動などでも老人会の方たちを講師に招いて、文化活動で来てもらって。将棋というのは3手先を読むといわれるように、頭脳も使いますし、勿論礼儀作法も必要になってきます。そういう意味で囲碁将棋もそうなんですけど、茶道であったり、日舞であったり。我が子は和太鼓をしているんですけど、そういう日本の伝統芸能、倉敷でも8月にジュニア伝統芸能フェスティバルがありますけれども、

出られる子たちというのは本当に礼儀作法を教えられているので、小・中学校、高校も含めて、そういうのに触れ合う機会を増やしていただければ、子どもたちも変わっていくと思うんです。今、学級崩壊ですとか授業が荒れたりということが増えているのが、親がそういうことを知らないというのが多いんですね。私なんかは、親からかなり厳しい指導を受けてきているので、子どもにも伝承ができますし、内の場合は3世代同居ですので、祖父母から孫へという指導もあります。核家族が増えている中、指導もできない、だから礼儀作法もできないということがあるので、そういうのを文化を通して教育もできればと思っています。

《市長》

大変良いお話を言っていただきまして、ありがとうございました。今、学校と地域の連携ということで、地域へ学校の木の剪定をしてくれませんかとか、芝生を一緒に刈ってくれないませんかとかそういうお願いの仕方を結構しているんですが、今言って下さったように、茶道を教えてくださいませんかとか、尺八を教えてくださいませんかとか、日本の歴史を教えてくださいませんかということなど、お願いするアプローチもあるなと思いました。

《参加者0さん》

倉敷美術協会のものです。先ほども市の美術館の照明の話がでたんですけど、壁面の壁のクロスも非常に色に変色してしまっていて、しみもかなりありますので、是が非でも、勿論我々も美術館の方にも働きかけているんですけど、市のほうも何とかしていただきたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひします。

それから美術協会は歴史がありまして、来年で57回展ということで、1年1回しているんですけど、市の美術館と共催ということで、毎年正月の初めから約2週間ほど展示していますけど、ジャンルを超えて、洋画・日本画・彫刻・立体・工芸など色々な各分野で皆さん頑張っているんですけど、やはり各美術団体も含めまして、年齢が非常に高くなり、今若手のこちらに芸科大の学生さんがいらっしゃいますが、20代・30代が非常に少ないということがありまして、我々も若手がそういうところへ出品していただきたいの願ひがあります。文化に貢献できるように頑張りたいと思います。

もう1つ、ダビンチの最後の晩餐であるイタリア・ミラノにある美術館では優先順位がありまして、1度に20人しか入れません。1番がイタリアの子ども、そしてイタリアの大人、最後に外国人ということで、子どもを教育するにおいては、非常にためになるということで。我々逆にこちらの地域から言いますと、せっかく良い大原美術館がありますので、市内の小中学校の子どもさんを必修でオープンに見せていくということを働きかけていただきたいなと思っていますので、その辺りも含めて、よろしくお願ひします。

《市長》

大原美術館さんにも日頃から大変ご協力をいただいております、地元美術館で大変ありがとうございます。

《参加者 P さん》

生活に文化が薫るまちづくりということで、非常に大きな問題かと思いますが。私が今日聞かせていただいていることは、生きている人間、ひとり一人に生活があるわけで、市民48万人と言われていますが、色んな文化が錯綜して関わっておられると思うんです。色んな方が色んな活動をしておられて、そういう活動が市とどういう接点でつながっていいのか、それが問題かなと思うんです。2007年には市民活動推進課でお世話になって、1つ事業をさせていただいたことがあるんです。市の中で色んな所があります。例えば、文化振興課ではどういつながり方をしていくのか、色んな活動している人が色んなつながりをしていくと思うんですけど、そういう所が簡単に敷居が高くなくて、こういうことを思っていると話に行けると。第1歩を踏み出す、そういう場が市のほうでできるのかどうかということを考えてみました。

もう1つ反対に文化のレベルを上げるといふか、そういう面から言いますと、さきほどの方が美術館のことを言ってくれましたが、倉敷には大原美術館があります。世界的な名画は大原美術館へ行って見れるわけですけど。例えば倉敷市立美術館があります。館長さんのことをここで知っている方が何名おられるか、顔を見たことがあるんだろうかと。なぜそういう話をしたかという、市立美術館の館長というものが市のほうでどのような位置づけをされているのかというのを常々思っていますので。

《市長》

ちょっと検討させていただきます。中々難しい問題も入っておりますが、おっしゃることはわかります。ありがとうございます。

《参加者 Q さん》

山田方谷とか三島中洲のお話ができましたけれど、私は倉敷市書道協会のものです。真備町の出身で井上桂園先生という立派な先生がおられます。その先生を顕彰するために、小中学生の市内の子どもたちの作品を集めて審査しておりますが。これを市内だけでなく、教育書道家の井上桂園先生ですから、全国に発信したいなど。是非、倉敷から真備町の出身ということで発信したいなと思いますので、ご検討よろしくお願ひします。

《市長》

国定教科書の井上桂園先生、本当にご尽力いただきまして、しっかり発信頑張ります。ありがとうございます。

《参加者 R さん》

倉敷市民合唱団のものです。合唱団ができて54年、市の合唱連盟ができて40年になるんですけども、合唱連盟でサマーコンサートとかフェスティバルとかやっています。この辺りに行ったら音楽が毎日聴かれる、ジャンルは別で。美術の方は市立美術館

で無料でやられています。良いことです。美術館に行ったら色々な市内の美術が鑑賞できる。例えば、邦楽はここへ行ったら。市民会館とか文化センターとか芸文館，そういう箱物の中で演奏しようと思うと，お金がものすごくかかります。私どももあまり裕福ではございませんので，できるだけ安くしたい。安価にいつもそこへ行くと音楽が流れているそういう場所。いつも市民が絵をかいたり，写真を出したり，そういうことが見れる場所をどうか考えていただきたい，安い建物で結構ですけど，そういうのがあったら良いなと思っています。場所をお願いできればうれしいです。

《市長》

新たに作るの難しいと思いますが，ありがとうございます。

《参加者 S さん》

色々お世話になっていることが沢山ありまして，そのお礼を申し上げたかったのです。

《市長》

ありがとうございます。本当に時間が超過しまして，申し訳ありませんでした。皆さんから色々な観点でご発言いただきまして，大変ありがたく思っております。色々検討し直さないといけない事，また発信しないといけない事，子どもさんたちとの関わりの事。

最後に私から，今日町並み保存の事のお話しが私もあまりできなかったんですが，今度9月に，全国の町並みゼミというのが倉敷で20・21・22日の3日間，全国から集まりまして町並み保存についての大きな大会があります。伝統的地区を擁する倉敷としては，倉敷だけではなく高梁川流域の市も町も参加していただきますので，そういう面からも色々な観点で発信できる場所があります。すぐ前にある我々が誇る大山名人記念館，将棋，囲碁も吉備真備さんがいらっしゃるので，しっかり発信しないといけません。本当に色々なことがありますので，皆さんが文化を発信していただきやすように，また子どもさんたちに文化がもっと身近になるように，また色んなところに倉敷のことが出て行けるように，頑張ってまいりたいと思っております。

倉敷ケーブルテレビさんも来られていたので，ひと言申し上げますと，倉敷市から現在も東北の被災地に，福島県庁と福島県の南相馬市と宮城県の塩釜市にずっと職員を派遣していきまして，復興の支援をしています。宮城県の松島にも倉敷から2ヶ月間，職員が何十人も行きまして，災害のガレキを撤去して，今もとに戻ったんですが，そのような観点からそれらの市と町と，観光交流協定・文化交流協定を結ぶことになりまして，先日新聞にも出まして，見られた方もあるかと思いますが。8月3日以降に倉敷ケーブルテレビさんで，この前私が東北に行きまして，文化交流協定・観光交流協定，倉敷市の職員が現地でどういうふうに関わって，皆さんから感謝していただいているということも同行取材をしてくださって，テレビに映るといことがありますので，もしよかったですら皆さん見ていただければ有難いなと思います。今日は時間を超過しまして，大変失礼しました。本当に皆さんから，貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。今後とも，文化が薫るまちづくりを頑張ってまいりましょう。